

青年期の学習意欲に関する研究

——特性的自己効力感とアイデンティティ発達との関連について——

CHU YUE

研究目的

現代大学生にとっての学習意欲のあり方を明らかにし、特性的自己効力感とアイデンティティ発達との関連を検討し、それぞれのいくつかの側面がいかに関連するかを明確にし、さらに、男女差を明らかにすることを目的とする。

研究方法

大阪府下私立4年制大学の1～4回生を対象とし質問紙を配布した。男子81名、女子148名、平均年齢19.0歳であった。特性的自己効力感（成田ら、1995）、大学生の意欲低下領域尺度（下山、1995）、多次元自我同一性尺度 MEIS（谷、2001）を使用し、「1. まったくあてはまらない」「2. あてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. あてはまる」「5. 非常にあてはまる」の5段階評価を用いた。

結果と考察

(1) 学習意欲と特性的自己効力感 2者は関連をもつことが明らかとなった。男子では特性的自己効力感は大学生活への意欲に関連しており、女子では大学生活だけではなく、学業や授業意欲にも特性的自己効力感が緊密に関連していることが示された。また、男女では大学のとらえ方が異なり、女子は大学を学業が本業である場としてとらえる可能性が高いことが考えられる。

(2) 学習意欲とアイデンティティ発達 2者は関連をもつことが明らかとなった。特に、アイデンティティ発達は大学生活への意欲と関連していることが示された。また、先行研究と異なり、アイデンティティ発達との関連が認められた。自分は自分であるという感覚、そして、これからの自分のあるべき姿がはっきりとなれば、自発的に勉強に取り組むようになり、主要な勉強を進める方法としての授業にも参加するようになるのではないかと考えられる。

(3) 特性的自己効力感とアイデンティティ発達 2者は関連をもつことが明らかとなった。特性的自己効力感の「行動力」の側面において、男女で異なる関連を持つことが明らかとなった。困難を切り抜けて行動することは男子にとって、自分自身の目標の明確さや自分らしく生きる自信につながるが、女子にとっては他者から理解してもらい、認めてもらうことにつながる。

結論

大学生の学習意欲と、特性的自己効力感やアイデンティティの発達との間に、明らかな関連が確認された。さらに、特性的自己効力感、アイデンティティ発達の各側面は、男女では学習意欲に異なる関連をもつことが明らかにされた。